

SILVER W-12

owners manual



目次

目次	1	自動位置補正 (APC)	7
はじめに	1	AVレシーバーとの接続	8
付属品	1	AVステレオアンプとの接続	8
スパイク付き脚部の固定	2	EQ Profiles	9
カーベットフロア	2	Auto On/Off 機能及び	
フローリング/タイルフロア	2	入力信号感知に関する追記	9
上部コントロールパネル	3	トラブルシューティング	10
アンプ (リアパネル)	4	エラーモード	10
初期セットアップ	6	ファクトリーリセット	10
電源サイクル	6	ファームウェアのバージョン	10
セットアップ	7	Specification	11

はじめに

MONITOR AUDIO Silver W-12をご購入頂き、誠にありがとうございます。

本機は日本で厳重な検査を行った上で、お客様にご提供しております。

お客様に安全なご使用方法をご理解頂き、正しく設置の上、快適に音楽をお楽しみ頂くためにも、この取扱説明書は大切に保管願います。

付属品

最初に箱の中身を確認してください。

※欠品がありましたら直ちに購入店に連絡してください。

本体	×1	スパイク付脚部	×4
電源ケーブル	×1	取扱説明書 (本紙)	×1
12V Triggerケーブル	×1	保証書	×1
マイク付きケーブル	×1		

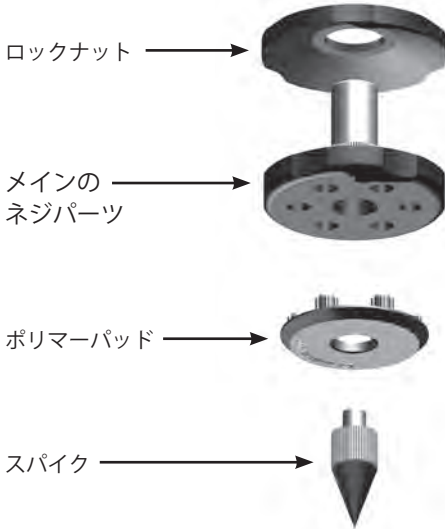
スパイク付き脚部の固定

カーペットフロア

SilverW12の脚部固定時、カーペットフロアではスパイク、フローリング及びタイルフロアではポリマーパッドを組み込みます。



カーペットの下に配線や電源ケーブルが敷かれていないか確認してください。
スパイクによる破損の原因となる場合があります。



脚部は、カーペットフロアですぐに使用できるよう、組み立てを完了した状態で出荷しております。

そのため、キャビネット底面に固定するだけで使用できます。

固定する際は、キャビネット下部の4つのネジ穴に脚部を完全にねじ込みます。

お手持ちのカーペットが分厚い場合には、脚部から硬質ポリマーパッドを外し、スパイク部分がカーペットを通して床に届くようにしてください。

ご希望の位置にキャビネットを配置し、すべての側面が水平になっていることを確認します。

やや水平でない場合は、最も低い箇所の脚部を緩めて微調整を行い、再度確認してください。

キャビネットが水平の状態になるまで、この作業を繰り返します。

ロックナットを使用して、適切な位置に脚部を固定し振動を止めてください。

フローリング/タイルフロア

硬質の床やスパイクの使用が適切でない場合には、スパイクを取り付けずに脚部を使用することも可能です。

この場合、スパイクのざざざした部分をしっかりと掴み、反時計回りに回転させてスパイクを緩めた状態にします。



上部コントロールパネル



1. EQボタン

EQボタンは複数の操作に使用します。使用方法は、

- ・1回押すと、スタンバイモードより起動します。
- ・5秒間長押しをすると、スタンバイモードへ切り替わります。
- ・操作中、3種類のEQ Profileを切り替えることができます。
- ・操作中は現在選択中のEQ Profileを示します。それ以外はモードにより色が異なります。色彩表示に関しては下記の通りです。

白	— 起動
青	— EQ Profile 1(Movies)
ピンク	— EQ Profile 2(Music)
緑	— EQ Profile 3(Impact)
水色	— 室内測定モード
赤	— ファクトリーリセット(静止状態)
黄色・その他の色	— エラーモード(違う色で点滅する。下記参照)

EQ Profilesの詳細は10ページをご参照ください。

2. 測定ボタン

測定ボタンは「自動位置補正機能(APC)」設定時に使用します。

室内の音圧レベル(SPL)を測定し、部屋環境による様々な要因を相殺してスピーカーの周波数レスポンスを修正します。

詳細は8ページの「自動位置補正(APC)」をご参照ください。

3. マイク入力ソケット

ルームアコースティックの調整のため、本機に設置します。詳細8ページ参照。

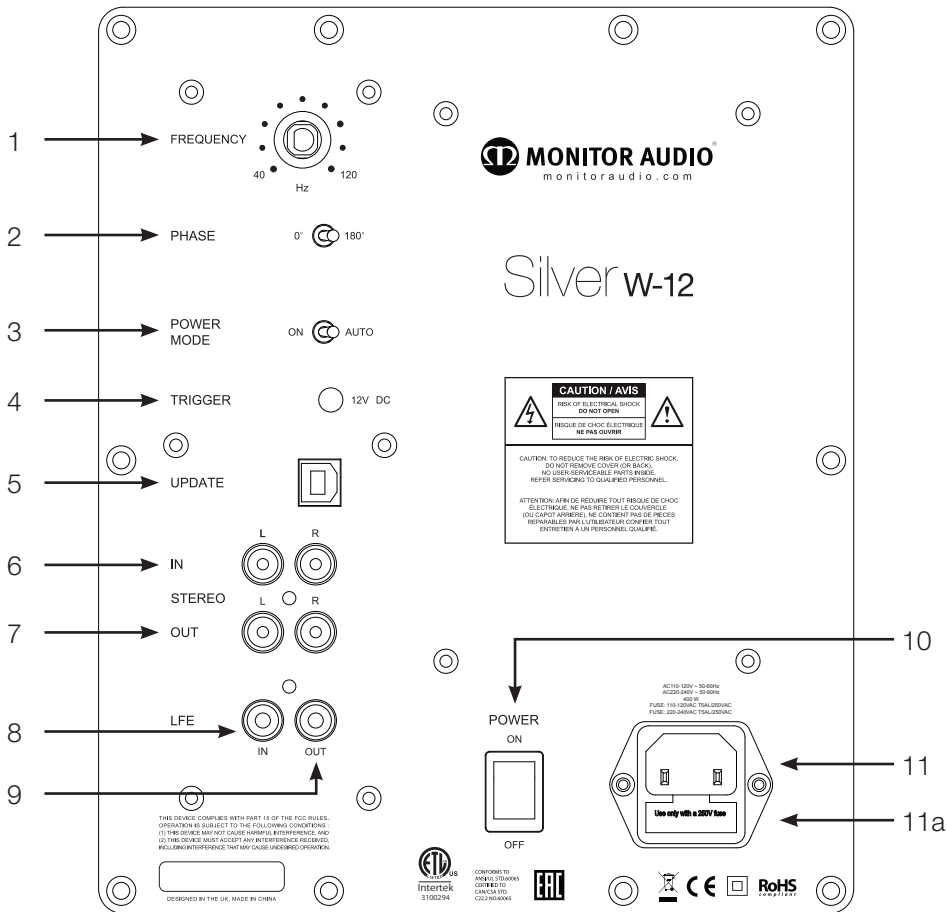
4. ボリューム調整

ボリュームを調節します。

お手持ちのスピーカーシステムの音と違和感なく調和するレベルに調整してください。

9ページにて初期推奨設定をご確認ください。

リアパネル



1. FREQUENCY調節つまみ

クロスオーバー周波数を設定します。2chステレオ入力(RCA)選択時のみ有効です。
LFE接続の場合は機能しません。本機と組み合わせるスピーカーに応じて調整してください。
一般的なスピーカーのクロスオーバー周波数調整の最適条件に関しましては下表をご参照ください。

メインスピーカーの種類	クロスオーバー周波数の値
大型のフロアスタンディングスピーカー	40-60 Hz
小型のフロアスタンディングスピーカー	50-70Hz
大型のスタンドマウント/ブックシェルフスピーカー	50-80 Hz
小型のスタンドマウント/ブックシェルフスピーカー	60-90 Hz
小型サテライトスピーカー	80-120 Hz

2. PHASEコントロールスイッチ

フェイズ(位相)を0°または180°で設定します。通常は0°にしてください。

3. 自動切替スイッチ

電源モードをOn/Autoに切り替えます。

On :本機の電源モードは常にOnの状態になっています。

スタンバイモードにするには、手動での操作が必要です。

スタンバイモード下では、EQボタンを押して本機を起動してください。

Auto:接続した機器のRCAステレオ入力またはLFE入力信号を受信することにより、自動的に電源Onの状態になります。約20分間入力信号を受信しないまま放置しますと、スタンバイモードに切り替わります。

詳細は9ページを参照。

4. 12V Trigger入力端子

本機と12V Trigger出力を持つAVアンプ/レシーバーと接続し、電源On/スタンバイモード切り替えを接続した機器側で連動して行うための端子です。付属のTriggerケーブルで接続してください。

12V Triggerケーブルを接続している間は、自動切替スイッチを必ず“AUTO”の状態にしてください。

5. USB コネクタ

ファームウェアアップデートに使用します。(2017年1月現在未搭載)

更新情報はMONITOR AUDIOのHP(英語)、(株)ナスベックのホームページから告知されます。

6. 2chステレオ入力 (RCA)

2ch/ステレオアンプシステムへの接続に使用します。接続はアンプのプリアウトセクションからペアのハイクオリティな信号ケーブルを使用してください。

※10m以下のインターコネクトケーブルを推奨します。

7. 2chステレオ出力 (スルー)

2chステレオ入力(RCA)をスルー出力します。2台目のサブウーファーに接続する時に使用します。

8. LFE入力 (RCA)

アンプ/レシーバーのLFE(サブウーファーch出力)を接続します。

LFE入力を接続する場合、FREQUENCY機能の調整はできません。

9. LFE出力 (RCA/スルー)

2台目のサブウーファーなど、スピーカーを繋ぎ接続(チェーンコネクト)する場合に使用します。

10. 主電源スイッチ

本体主電源のOn/Offを行います。長時間使用しない場合はOffにしてください。

※主電源スイッチは本機の背面に位置するため、位置決めの際は、スイッチにすぐ手の届くだけの空間の余裕を持たせてください。

11. IEC電源コネクタ

IEC電源コード差込口。全ての機器の接続を終えてから、付属の電源ケーブルを接続してください。

※付属のIEC電源コードのみを使用してください。

初期セットアップ



すべての接続が完了するまで、電源コードを接続しないで下さい。

- ・壁の共振を生じる原因となりますので、部屋の隅への設置はできるだけ避けてください。
 - ・また、他の製品と本機を重ね積みしないでください。振動により他の製品に支障をきたす場合があります。
 - ・お好みのポジションが定まりましたら、ケーブルが無理なく十分な長さであることを確認してください。
- ケーブルは10m以下のものを使用してください。



SilverW12の電源を入れたまま、RCA入力/出力を抜き差ししないでください。

- ・初期設定の段階では、自動切換スイッチを「0n」の状態にし、12V Triggerケーブルは接続しないでください。
- ・入力(出力)系統の接続が完了し、自動切換スイッチが「0n」の状態になったら、電源ケーブルを電源につなぎ、電源スイッチを「0n」にしてください。

電源サイクル

SilverW12に初めて電源を入れる、もしくは長期間電源を切っていた場合、起動時にEQボタンが3度赤く点滅し、スタンバイモードに移行します。

(自動切換スイッチがAutoの場合)

入力信号を感知する、もしくは12V Triggerケーブルを通して電源を入れると、起動中はLEDが白く点灯します。その後、LEDは前回選択した(もしくはデフォルトの)EQ Profileの状態を示す色に点灯します。

自動切換スイッチが「0n」である場合も、起動時はLEDが白く点灯し、しばらくすると前回選択した(もしくはデフォルトの)EQ Profileの状態を示す色に点灯します。

正しい設定手順として、次に自動切換スイッチを「0n」にし、自動任意補正の設定を行います。

セットアップ

自動位置補正 (APC)

自動位置補正 (Automatic Position Correction=APC) は SilerW12 の音響出力を最適にします。APC は室内の3箇所からそれぞれ正確な数値を測定し修正を施します。

NOTE: お手持ちのAVアンプで自動セットアップ機能を始動させる前に、自動位置補正を行ってください。

APCを稼働させるにあたり、下記の手順に従ってください。

1. 通常操作中に測定ボタン (P.6参照) を長押しします。
測定ボタン内のLEDが青色に点滅したら、APC測定モードの準備ができたことを示します。
2. 上部コントロールパネルの入力ソケットに付属のマイクを接続し、通常のリスニングポイントにマイクを配置します。
レスポンスの制度を最大限にするためにも、マイクは壁に対して上向きにしてください。
マイクの設置が完了したら、EQボタンを押して室内測定を始動します。
この時、LEDは水色に点灯し、連続的なテスト音が聞こえてきます。

音の読み込みが十分でない場合は、EQボタンのLEDが赤く点滅し、正確な測定を完了するまでテスト音を再生し続けます。
LEDは緑に点滅し、それから紫色に変わり(均等化する過程)、消灯します。
測定ボタンは再び青く点滅しますので、2度目もしくは3度目のテスト音を再生させます。
3. 残りの2カ所に関しましても、手順2を繰り返します。

2度目・3度目の測定に適したポジションは、最初の測定ポイントから左右1m離れた位置です。

本機は直近で測定したリスニングポイントと理想的な低音レスポンスとの誤差を算定します。
その後、測定した部屋環境での最適なデジタル・フィルタを適用します。

APCを完了しますと、測定ボタンのLEDは消えて、EQボタンのLEDが前回選択したEQ Profileを示す色に点灯します。

2度目もしくは3度目の測定を望まない場合は、測定ボタンを再度押すことによってAPCを中断させることができます。

AVレシーバーとの接続

ほとんどのAVアンプは自動セットアップシステムを有しています。

お手持ちのアンプに自動セットアップ機能がある場合は、SilverW12のボリュームは10～12時の方向に合わせてセットをし、自動切換スイッチはOnの状態にしてください。

自動セットアップが完了しましたら、AVアンプと本機間のセッティングが正しくなされているか確認してください。

周波数はおおよそ4ページの表で示した数値に調整し、 $\pm 3\text{dB}$ の範囲に収まるようにします。

ここまで正しい手順を踏まえて作業を完了しましたら、よく馴染みのある音楽・映画を再生し、視聴レベルまで徐々にボリュームをあげていってください。

AVステレオアンプとの接続

2chステレオアンプもしくはLFE出力のないアンプをご使用の場合は、ステレオL&R入力に接続します。

アンプから本機の入力L&Rと表示のある端子にインターコネクトケーブルを2本使用して接続します。

プリアンプもしくはプリメインアンプのボリュームを下げて、下記に示すガイドに従って設定を行ってから、音楽やテスト音を再生してください。

- ・ボリュームは約10時の方向に合わせます(6ページ参照)
- ・クロスオーバーはメインスピーカーに合わせて設定します(4ページ参照)
- ・PHASEは0°にしてください。

馴染みのある音楽を再生して、徐々にボリュームを上げていきます。

必要であれば、本機と他の機器との周波数のバランスをお好みに合わせて調整して下さい。

EQ Profiles

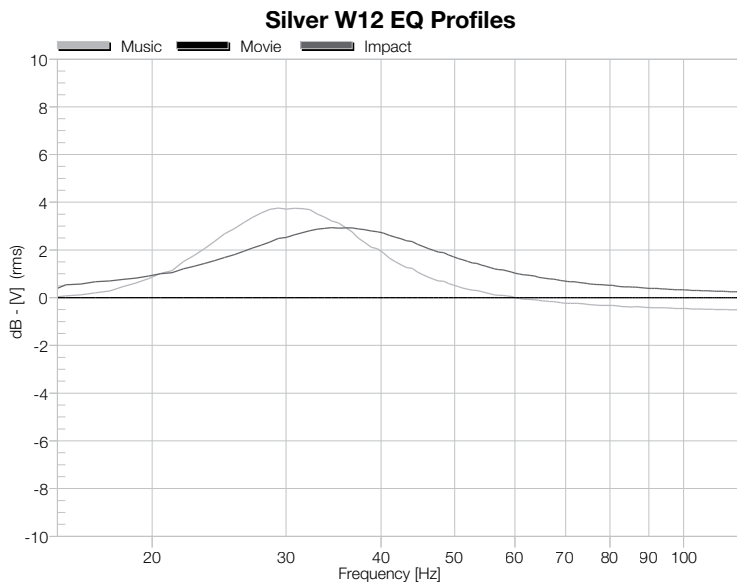
SilverW12には3種類のEQ Profileが設定されています。

- EQ1 … Movies 映画推奨。比較的フラットなレスポンスですが、映画音楽のバランスを生み出すため、若干広めの再生帯域が設定されています。
- EQ2 … Music 音楽推奨。再生帯域が広く設定された低周波数を最大限に再生し、各楽器の周波数を最大限実現します。
- EQ3 … Impact 強力なインパクトを生み出すために、最も効率的でナチュラルなドライバー駆動を実現するモードです。

それぞれの特性により、本機から再生される音色は異なります。

異なったEQ Profileを実際にお試しいただき、好みやお部屋環境に合わせて設定することを強くおすすめします。

周波数の違いの一例として下表をご参照下さい。



Auto On/Off 機能及び入力信号感知に関する追記

Autoの状態では、起動時、トリガー入力をRCAステレオ入力またはLFE入力信号より優先して感知します。ステレオ入力・LFE入力のいずれも1mVほどで入力信号として感知します。

- 1.RCAステレオ入力またはLFE入力信号を受信することによりシステムが起動します。
約20分間入力信号を受信しないまま放置しますと、スタンバイモードに切り替わります。
この場合、トリガー接続による影響はありません。
- 2.トリガー入力により、システムは起動します。
この入力信号によってアンプの設定が影響を受けることはありません。

トラブルシューティング

エラーコード

SilverW12は3種類のエラーコードを表示できます。

それぞれのエラーコードは、EQボタンのLEDに黄色とその他の色(赤・青・緑)で表示されます。

Mode 1 - 電源ユニットの問題 → 黄色と赤色が交互に点滅

Mode 2 - 内蔵アンプの問題 → 黄色と緑色が交互に点滅

上記の問題が生じた場合、最初に電源サイクルの手順を試みて、電源を切り、5分間放置します。

それでも問題が解決しない場合は、ファクトリーリセットを行ってください。

依然として音が出ない、もしくはエラーモードのままである場合は、株式会社ナスベックまでお問い合わせください。

ファクトリーリセット

場合によっては、ファクトリーリセットを行う必要があることがあります。

ファクトリーリセットの手順は、EQボタンと測定ボタンを同時に長押しします。

これによってリセットされる内容は下記の通りです。

- ・直近で設定したEQ(Profile 1にリセットします)
- ・マイクで測定したデータ
- ・APCの結果作成されたデジタルフィルターのデータ

ファームウェアのバージョン

EQボタンと測定ボタンを同時に押すと、LEDの点滅により、直近のファームウェアのバージョンを確認することができます。

EQボタンのLEDは「1」を表し、測定ボタンのLEDは「0」を表します。このように、両ボタンのLEDの点滅具合でファームウェアのバージョンが確認できます。

【例】

ファームウェア ver 2.1.1 → [EQ LED]×2 - [間] - [EQ LED]×1 - [間] - [EQ LED]×1

ファームウェア ver 3.0.0 → [EQ LED]×3 - [間] - [測定 LED]×1 - [間] - [測地 LED]×1

Specification

SilverW12-New	
形式	アンプ内蔵・密閉型サブウーファー/25mm厚 MDFキャビネット
ユニット	1×300mm C-CAMサブウーファードライバー 76mmロングストローク・トリプルサスペンション
内蔵アンプ	定格500W、Class-D アンプデザイン
下限周波数	20Hz
上限周波数	40 - 120Hz (可変/24dB/Oct)
イコライザー	Music, Movies, Impact
フェイズ (位相) コントロール	0°または180°
入力/出力系統	Stereo In/link out (アンバランスRCA) LFE In/link out (アンバランスRCA)
	USB B-type (ファームウェア・アップデート)
入力インピーダンス	>20kΩ
コントロール端子	12V Trigger入力 (3.5mm モノラルミニジャック)
電源	AC 100V 50/60Hz
消費電力	スタンバイ：<0.5W 最大：400W
サイズ (W×H×D) ※スパイク込	340 × 370 × 410 mm
重量	20.1kg

Monitor Audio は常により洗練されたデザイン、設計を目指し製品の改善に努めています。その為、デザイン、性能等
事前の予告無しに変更する場合がございます。

保証

本機の保証は株式会社ナスペックが行います。
詳しくは株式会社ナスペックのHP/サポートページ (<http://naspecaudio.com/support/>) をご確認ください。
修理の際は、販売店または株式会社ナスペックにお問い合わせください。

※修理についてのご質問・送り先は、下記 本社/サービスセンターにてお受け致しております。

詳しいお問い合わせは Monitor Audio 日本輸入総代理店 株式会社ナスペックまで

〒500-8386 岐阜県岐阜市藪田西 1-4-5 TEL : 058-215-7510 FAX : 058-268-7118
☎ : 0120-932-455

e-mail : info@naspecaudio.com HP : <http://naspecaudio.com>

2017/9/1 (Ver 1.0)